

協力の大切さ学ぶ

野上小児童

県立大開発ゲーム活用

井原

仲間と助け合う大切さを学んで



サッカーの協力ゲームを楽しむ児童ら

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

もらおうと、県立大(総社市窪木)の人工知能学研究室が開発したコンピュータゲーム「協力ゲーム」を体験する授業が8日、野上小(井原市野上町)で

「『セーの』で動かそう」などとタイミングを合わせながらコントローラーを操作するなを、ノートルダム清心女子大インクルーシブ教育研究センター

あり、児童が楽しみながら理解を深めた。

6年野中美森さん(12)は「普段の仲の良さがゲームでも出た。助け合ったり声をかけ合ったりすることが大事だと感じた」と笑顔

ゲームは、複数人でプレーするサッカーやVR(仮想現実)ゴーグルを身に着けて行うゲームは、AI(人工知能)と人間の心を

種類。11人が参加し、ゲームは、AI(人工知能)と人間の心を

(岩谷圭)